

# 生産性向上と新分野への挑戦で 環境経営の推進力を増した2007年。

2007年度は「生産体制の強化」と「新製品開発/新市場開拓」を重点的な経営テーマとして取り組みました。具体的には、福山工場の本格操業開始と既存工場の効率化を推進することで生産性を向上し、IT分野やライフサイエンス分野、環境系分野など今後成長が見込める分野への新商品開発を積極的に進めるなどして、環境経営の基盤強化に努めました。

## Topics **1** 福山工場稼働

当社としては最大規模の生産設備として福山工場を福山市のベイエリアに整備しました。2007年7月に精留設備を、2008年3月より特殊モノマー製造設備を完成させ、本格的な操業を開始しました。

福山工場は、海外からの原材料荷受けから、テルベン化成品の精留、反応加工、出荷までの一貫した生産能力を保有する最新鋭生産拠点です。TE製造設備（エレクトロニクス関連）及び特殊モノマー製造設備（自動車用塗料・電子材料）を保有する一貫生産体制が整うことにより、既存製品の拡充はもとより、新市場へもより柔軟に対応できるようになるため、今後の高い成長力が期待できます。



2007年6月 福山工場から製品の初出荷



2004年4月稼働 輸入原料貯蔵タンク



2006年9月稼働 TE製造設備



2007年7月稼働 精留設備



2008年3月稼働 特殊モノマー設備

## Topics 2 研究開発体制

研究部は、「天然物由来のテルペンを活かせる高付加価値分野を創造し、柱となる製品の企業化を目指す」という開発の基本方針をもとに、電子・光材料分野、環境関連分野、ライフサイエンス分野を現在の重点分野とし、新規材料の開発、新規市場の開拓、既存製品のシェア確保のための技術開発と研究を行っています。研究施設では、合成・精製をはじめ分析・評価など、最新鋭の機能を整えています。さらに実験室レベルからスケールを上げ、各種のパイロットプラントを整備しています。

研究開発グループの他に、パイロットスケールに対応した中試プラントグループ、分析評価グループ、知財グループがあり、それぞれ専門性を活かしながら新製品の開発に努めています。



## Topics 3 社内LAN教育システムの導入

2007年度より社内LAN教育システムを構築し、技術の「見える化（標準化）」や、教育時間等の効率化、情報の共有化を推進しています。

コンテンツは各部署ごとに独自で計画し作成したもので、現在、技術マニュアルや社内教育に関するコンテンツをはじめ、安全やセキュリティに関するもの、会社内部的なコンテンツを運用しています。社内コミュニケーションの活性化の上でも好評で、今後は、職場紹介や新プロジェクト紹介、OBからのアドバイスなどのコンテンツを順次追加していくよう計画しています。

